



第5回

神戸掖済会病院

【地域医療連携の会】に報告



垂水区医師会会長
中村 治正先生
(なかむらクリニック院長)

平成30年6月16日、第5回神戸掖済会病院地域医療連携の会をシーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催させていただきました。ご多忙のところ、117名(当院職員50名を含む)の方にご出席いただき厚くお礼申し上げます。

はじめに、当院島津敬院長による開会のあいさつの後、形成外科より「血管外科について」、循環器内科より「当院の不整脈治療」、脳神経外科より「平成29年度脳神経外科現状報告」と当院における治療についてのご紹介と、患者サポートセンター「地域医療連携部門より「平成29年度業績報告・連携室のご案内」の報告をさせていただきました。

特別講演では垂水区医師会長のなかむらクリニック院長中村治正先生より『垂水区における多職種連携の取り組み』についてのご講演がありました。

アフリカのルワンダ、アイスランドなどの旅行のお話をまじえながら、先生がされている在宅訪問の実際の様子を通じて在宅の患者さんやご家族に積極的に関わっていくことが大切であること、そのためには地域全体で多職種との「つながり」が重要であることをお話されました。

医療・介護・福祉の連携がますます重要であるとされる中、垂水区医師会として取り組まれている事業として、それぞれの職種が「つながる」ためにされている意見交換会や勉強会の様子もご紹介いただきました。また一方、NPO法人エナガの会で行政を動かす活動の幅を広げていかれたこと、市民にわかりやすく地域包括ケアについて伝えていく多職種協働による手づくり演劇による普及啓発活動など、たくさんの方の「つながり」場面をご紹介いただけたことはたいへん興味深かったです。

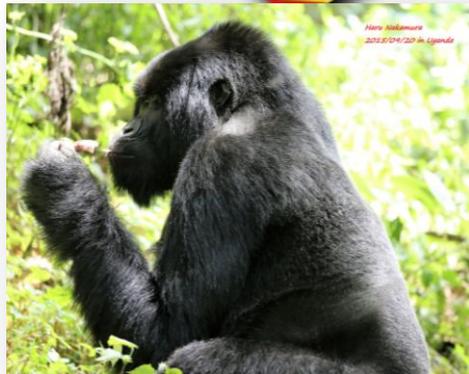
最後に、地域の医師は24時間365日患者を支えることは難しい。それ故24時間365日体制で患者を受け入れてほしいこと、病院とかかりつけ医の先生方の関係を密にし、地域での医療提供体制づくりが大事という

ご発言では、日頃病院業務に忙殺されている私どもにも必要を学ばせていただきました。顔の見える場つくりや顔の見える関係つくりを大切に医師会と病院と協力していくことも重要と考えます。

当院も地域支援病院としてこれまで以上に地域の医療機関と連携・協力しながら地域の皆様に信頼される病院でありたいと願い、当院の役割を充分に果たしていくことができるよう力を尽くしてまいります。

地域の先生方におかれましても、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

患者サポートセンター
統括師長 緒方由美



撮影 中村治正先生 ウガンダにて



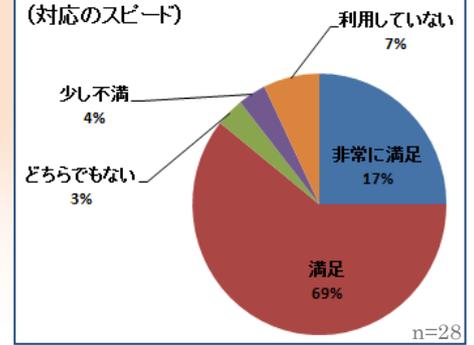
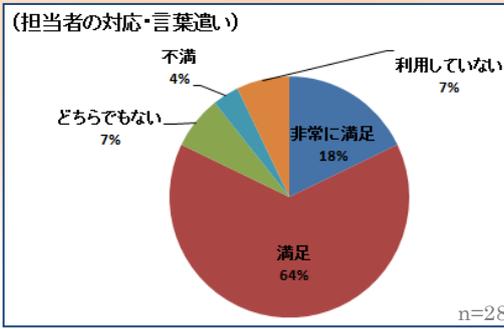
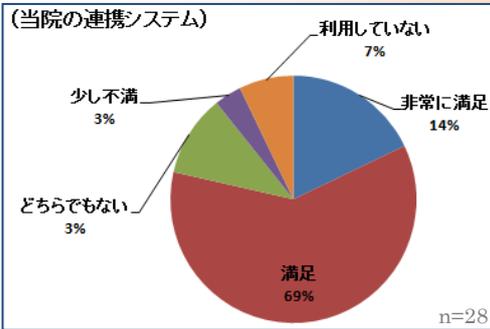


アンケート結果報告

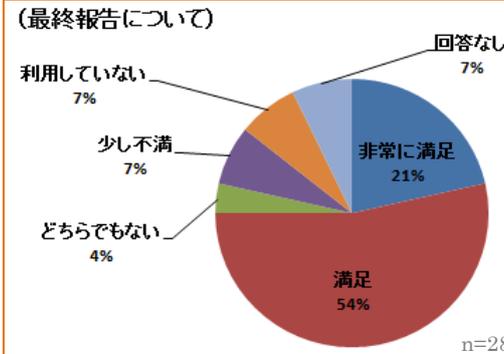
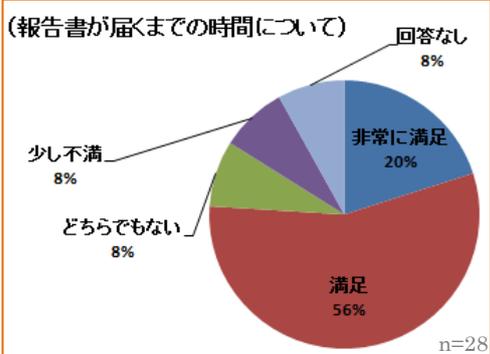
ご回答
ありがとうございました



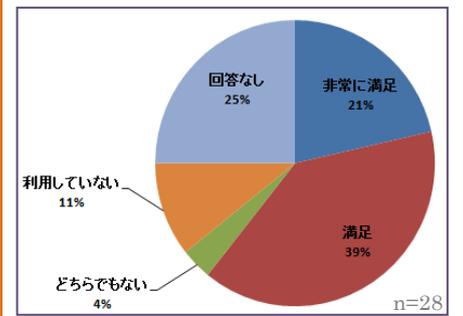
患者サポートセンターについて



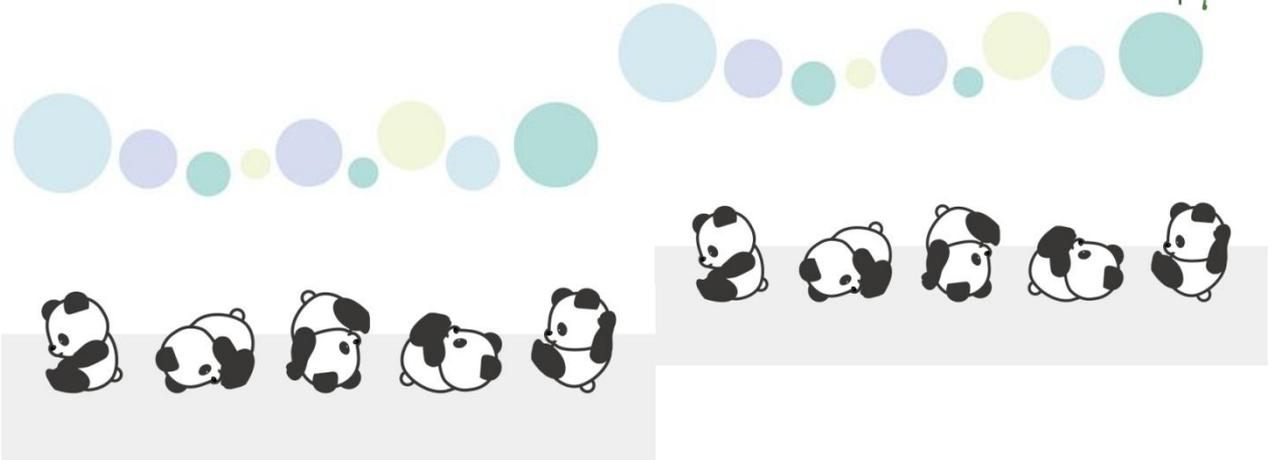
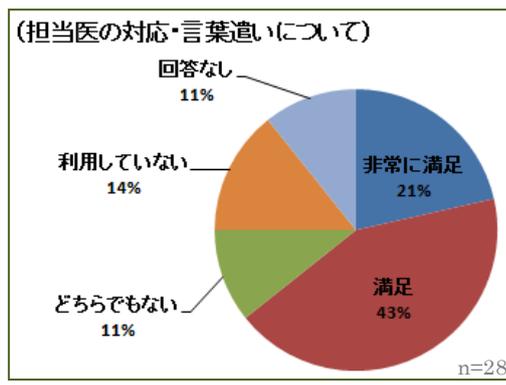
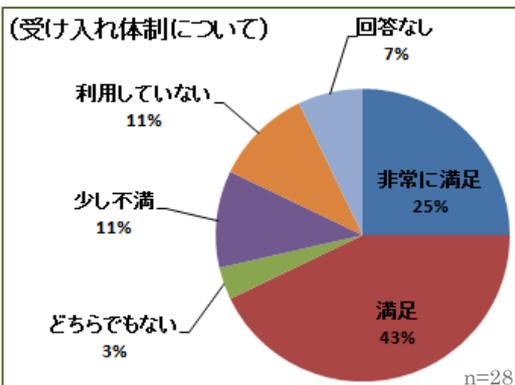
報告状況について



紹介患者様の逆紹介について



時間外緊急時対応について



*****アンケートでは非常に貴重なご意見をいただきありがとうございました。*****

ご意見に関する回答です。一部抜粋してお答えさせていただきます。

《ご意見》

回復期リハビリテーションの説明は曖昧でなくはっきりとしておいてほしい。

【回答】

ご意見の詳細はわかりかねますが、当院では病状が安定し、リハビリテーション病院対象となる患者様においては医師、MSW から回復期リハビリテーションをすすめ説明させてもらっています。しかしながら、説明が十分でなくご迷惑をおかけいたしました。

回復期リハビリテーション病院によっては、転院前に患者・ご家族様との面談に来られる場合があります。しかし、すべてをリハビリ病院にお任せするのではなく、当院においてもそれぞれの病院に合った説明ができるようにしていきたいと考えています。

医師・看護師・MSW とチーム内のコミュニケーションよく情報共有し、ご担当者の方へ引継ぎ、患者・ご家族様にご納得されたうえでリハビリ転院されることができるようしていきたいと考えています。

《ご意見》

独居老人が多い中、当院の患者さんは、貴院受診に際し、車がある人は車で、無い人はタクシー利用券で受診されています。送迎バス等お考え頂ければ助かります。

【回答】

当院へ来院される患者さんは広範囲にわたり、また不特定多数の方が対象となるため、送迎バス等を運行するのは難しいです。また、神戸市バス・山陽バスの一部路線が当院の正面玄関まで運行しておりますのでそちらをご利用していただければと思います。ただ、本数は少なくご不便をお掛け致しますが、今後も患者さんが通院しやすいよう、神戸市バス・山陽バスと交渉をしていきたいと考えます。何卒ご理解の程よろしくお願い致します。

《ご意見》

在宅療養が難しく医療ニーズも高い人が一時的にレスパイト入院できる体制を整えてほしい。断られことが多い。「時々病院、ほぼ在宅」ができるよう入院の垣根を低くしていただけたらありがたい。

【回答】

当院では、医療行為がある方で自宅に退院される方の14日以内のレスパイト入院を積極的に受け入れております。しかし、「断られことが多い」とのご意見から、ご相談頂いた際に何か行き違いがあったのかも知れません。今後も垣根を低くして原則から外れる場合でも担当医師・病棟とも協力し、レスパイト入院を受け入れさせていただきます。レスパイト入院に関してのお問い合わせは患者サポートセンターとなっております。お気軽にご相談下さい。「時々入院、ほぼ在宅」の実現に向けて地域の皆様と協働していきたいと考えておりますので、患者さんのご相談・ご紹介いただきますようお願い致します。



7月1日付けで外来師長になりました。

高部です。出身は徳島県美馬市、得意なものは阿波踊り。猫と吉本が大好きで、最近、深水先生のおすすめでトランポリンに通っています。私は、掖済会病院が垂水区に移転して以来、当院に勤務しておりますが、内視鏡室と放射線・救急外来を経て、透析室も担当させていただきました。

その経緯の中でこれまでも、地域の皆様には何かとお世話になる機会が多くありました。救急外来ではご紹介を頂いたり、また、こちらから通院治療のご紹介をさせて頂くこともありました。一期一会とは言いますが、人との出会いはその一つひとつが最初で最後になるかもしれない、どれも大切な出来事で、また今後もどこかでお互いが関わっていく事になるのかもしれない、不思議なものだと思います。私が看護師になってすぐの頃、勤務先の病院でお世話になった先生方が、この垂水区で開業されて、ずっと離れたこの地で再びお会いして、またお世話になるとは思ってもみなかったことでしたので、人との出会いやご縁の不思議を実感しました。私は、これからもずっと人との出会いとともに「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

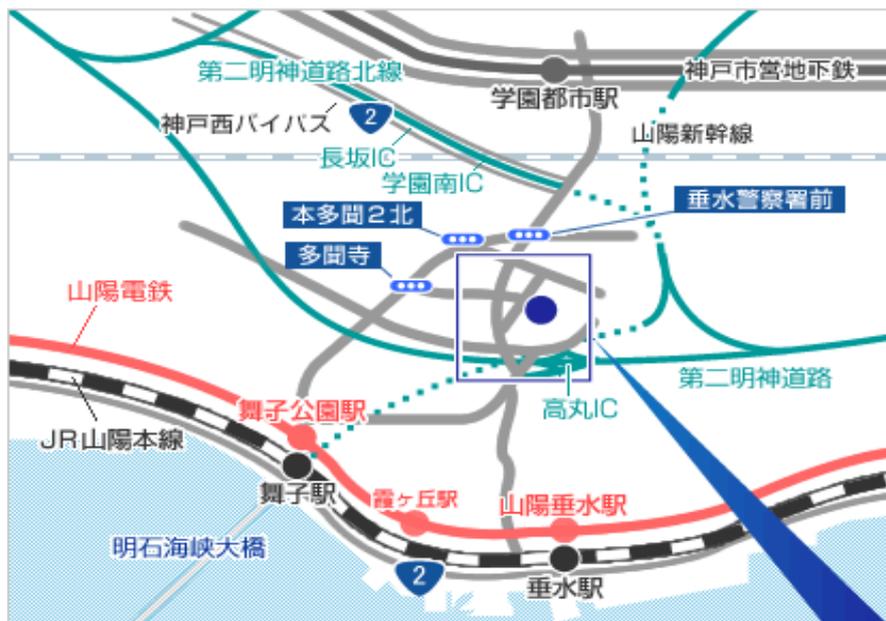
さて、病院での看護と言えば、入院患者さんのケアがメインであるように思われがちですが、最近の医療の形として、入院期間が短くなるにつれて、退院後もいかに患者さんがご自宅で、また住み慣れた地域で快適な生活が送れるようにサポートできるのか、という点が重要視されるようになりました。そこで私たち外来看護師が、通院患者さんに必要な看護支援を継続して行っていくことが、これからの地域医療には必要になってくると思っています。その為には、病院での外来看護と、地域の医院、診療施設の方々との連携（つながり）が大切になり、患者さんの生活に密着した、トータルサポートが出来る地域医療を皆様方のご協力のもとに目指していくことが、私たちの大きな目標となるのではないかと考えております。

私たちは、できるだけ多くの患者さんが、笑顔で過ごしやすい快適な地域づくりを目指して頑張りたいと思っておりますので、ますますのご指導、ご鞭撻のほどを、よろしくお願い致します。

外来師長 高部道代



外来看護師一同



周辺図 ▶



【地下鉄学園都市駅から】山陽バス・神戸市バス 約12分

【地下鉄名谷から】山陽バス 約20分

【JR垂水駅から】山陽バス・神戸市バス 約20分



〒655-0004
 神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号
 TEL：078-781-7811（代表）
 FAX：078-781-1511
<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp>